

# 第5回次期生物多様性国家戦略研究会

## 鶴居村における 釧路湿原国立公園の保全と タンチョウとの共生に向けた取組



令和2年10月26日

鶴居村長 大石 正行

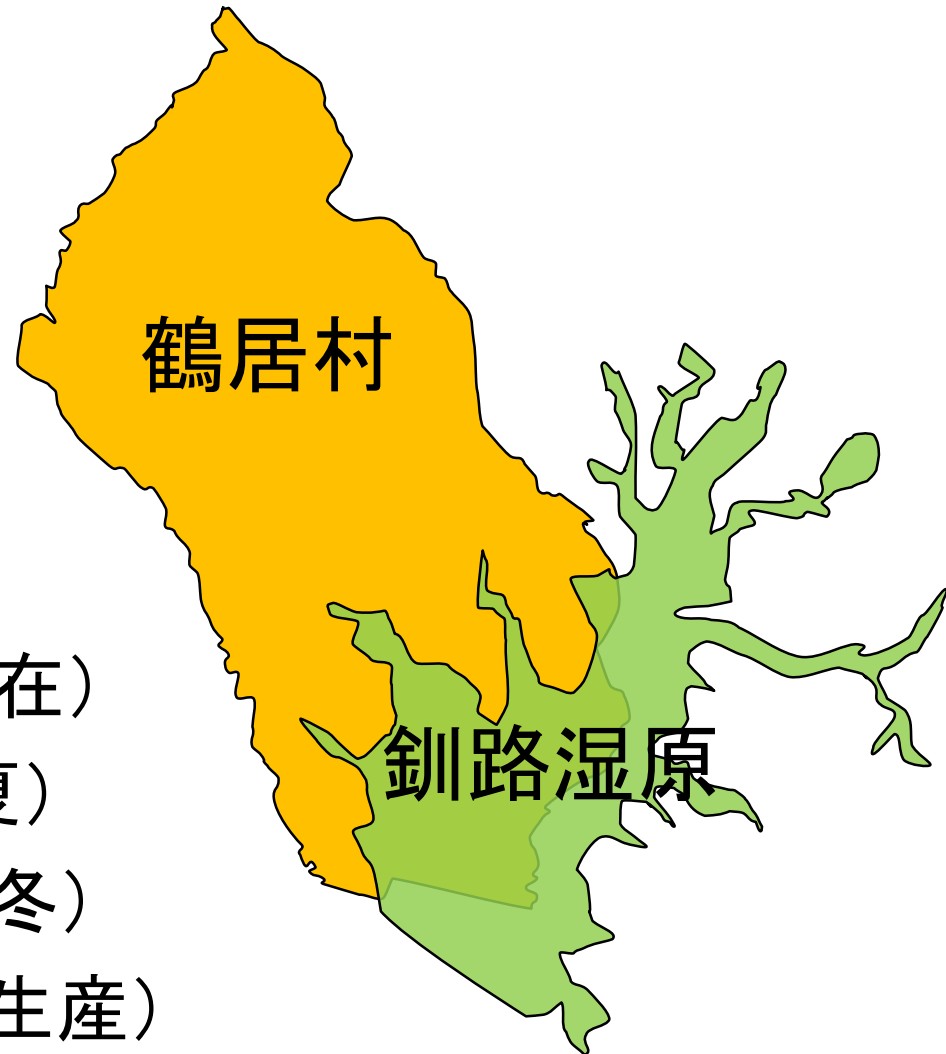
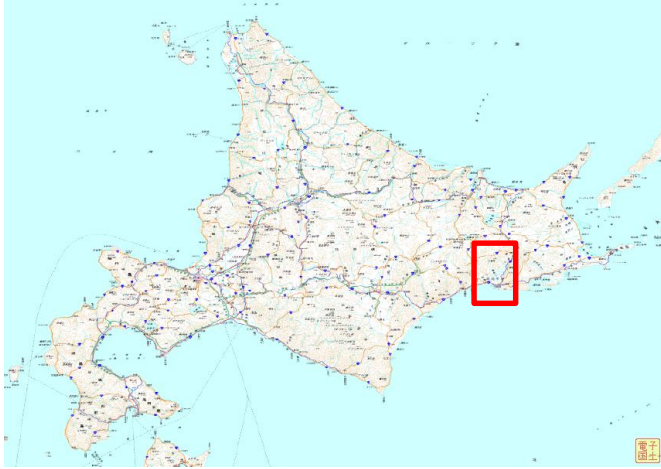


# 本日の説明内容

- 鶴居村の概況
- 釧路湿原国立公園の保全活動を通じた  
環境保護の普及啓発
- タンチョウ保護の歴史
- タンチョウとの共生に向けた取組
- 今後の課題



# 鶴居村の概況



- ◆面積 約572km<sup>2</sup>
- ◆人口 2,529人(R2.9現在)
- ◆気候 冷涼・霧(春～夏)  
小雪好天(秋～冬)
- ◆基幹産業 酪農(主に生乳生産)



# 鶴居村の概況

## 農業の概況

### ◆主に乳牛を主体とした酪農専業形態

\* 搾乳農家戸数(R2.10現在) 66戸(うち個人54戸、法人12戸)

\* 耕地面積9,596ha \* 生乳生産量 65,039トン(R1)

### \* 家畜飼養頭数

乳用牛13,346頭・肉用牛1,166頭、馬153頭、豚3,155頭、  
綿羊100頭、採卵鶏925羽

### ◆環境への配慮

\* 河川から釧路湿原への土砂流入を防止する沈砂池や  
堆肥管理



# 釧路湿原国立公園の保全活動を通じた 環境保護の普及啓発

- ◆ 釧路湿原国立公園市町村連絡協議会への参画
- ◆ 釧路湿原自然再生協議会への参画
- ◆ 釧路国際ウェットランドセンターへの参画
- ◆ 温根内ビジターセンターを拠点とした普及啓発
- ◆ 景勝地(キラコタン岬・宮島岬等)の保全・整備



キラコタン岬



宮島岬



北斗湿原展望台



# 釧路湿原国立公園の保全活動を通じた 環境保護の普及啓発

- ◆学校教育における体験学習
- ◆体験イベントの開催
- ◆モニターツアー等の実施
- ◆SNSを活用した情報発信





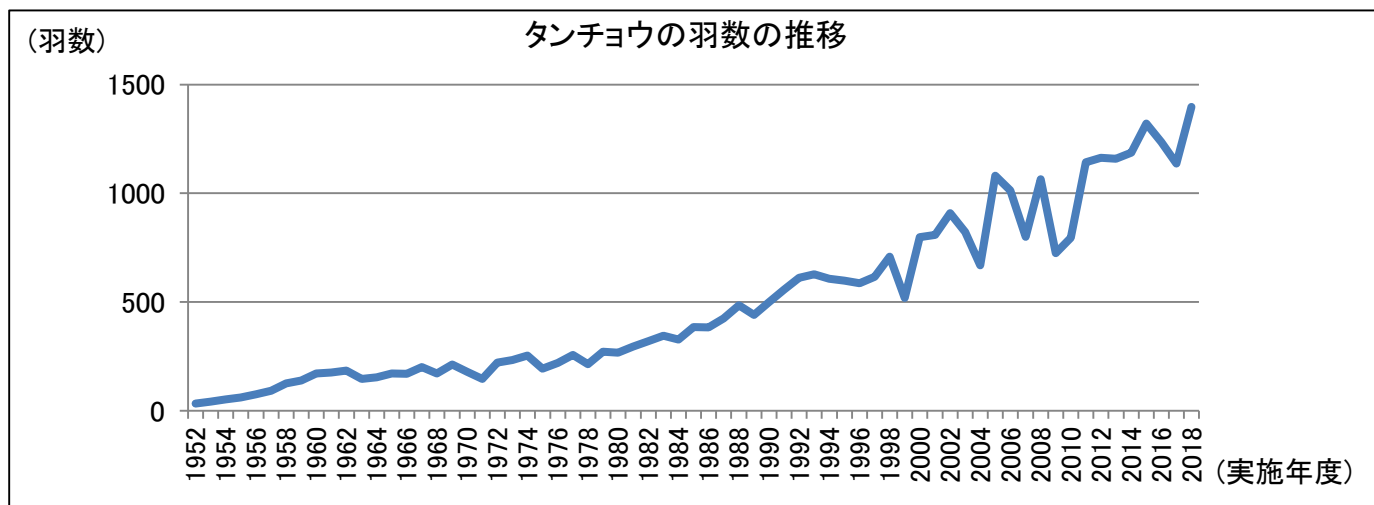
# タンチョウ保護の歴史

年	鶴居村での出来事	タンチョウに係る出来事
1924(大正13)年	タンチョウ再発見	
1935(昭和10)年		釧路丹頂鶴繁殖地が天然記念物に指定
1952(昭和27)年	村立幌呂小で給餌成功	特別天然記念物に指定
1962(昭和37)年		道教委が給餌人委嘱を開始
1966(昭和41)年	伊藤良孝氏による給餌開始	
1974(昭和49)年	鶴見台での給餌開始	
1985(昭和60)年	鶴居村タンチョウ愛護会発足	
1987(昭和62)年	鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ開設	
1993(平成5)年		保護増殖事業計画策定
2006(平成18)年		生息個体数初の1,000羽超



# タンチョウ保護の歴史

年	鶴居村での出来事	タンチョウに係る出来事
2008(平成20)年	タンチョウコミュニティ発足	
2013(平成25)年		タンチョウ生息地分散行動計画策定
2015(平成27)年		環境省委託給餌場での給餌量削減開始
2018(平成30)年	村教委にタンチョウ自然専門員を配置	
〃	鶴居村タンチョウと共生するむらづくり推進会議発足	







# タンチョウとの共生に向けた 取組

## ■ 鶴居村タンチョウと共生するむらづくり推進会議

村条例により2018(平成30)年6月に発足

### 【目的】

官民が一体となってタンチョウ鶴居モデルを構築・共有し、地域住民に普及啓発するとともに、実現に向けた取組が速やか且つ継続的に実施される道筋をつけること

### 【主な協議事項】

- ◆ タンチョウ保護のあり方
- ◆ 農業との共生
- ◆ 地域振興のあり方
- ◆ 地域住民のかかわり方

### 【体制】

委員20名(村長【会長】、役場、タンチョウ関係者、農業関係者、商工・観光関係者、村内関係団体、公募による村民)



# タンチョウとの共生に向けた 取組

## ■鶴居村タンチョウと共生するむらづくり推進会議

### 【これまでの成果】

- ◆タンチョウフォーラムの開催(村内外から105名が参加)
- ◆タンチョウ鶴居モデルの理念と将来像の設定
- ◆鶴居村における給餌のあり方の設定
- ◆上記に関する地域住民への啓発

※現在は具体的な活動計画案を作成中

### 【タンチョウ鶴居モデルの理念】

- ◆タンチョウの安定的な生息を保証するため自然環境と社会環境の向上をすすめる
- ◆タンチョウが村民はもとよりすべての人々に愛され、その存在が地域の発展と活力ある村づくりにつながるよう取り組む



# タンチョウとの共生に向けた 取組

## ■ 鶴居村タンチョウと共生するむらづくり推進会議

### 【タンチョウ鶴居モデルの将来像】

保護のあり方	1. 村内外でのタンチョウの生息状況を常に把握し、必要に応じて対応できる体制がある
	2. 繁殖期の生息環境の保全、越冬期のねぐらや採食地の把握・保全・整備が行われている
	3. 給餌は適正なやり方を常に検討し、合意の上で取り組まれている
農業との共生	4. タンチョウによる被害軽減の具体策が農業者に周知され、取り組まれている
	5. タンチョウの存在を活用した取組により、農業者がプラス面を感じられるしくみができている
地域振興	6. 鶴居村を訪れるすべての人が気持ちよくタンチョウを観察・撮影できる環境や情報が整備されている
	7. 観光や写真撮影による生息地のかく乱や住民への不利益が防がれている
地域住民のかかわり	8. 観光収入や募金が、タンチョウ保護・環境整備に活用されるしくみができている
	9. 村民がタンチョウの生態や共生のあり方について理解し、関心を持ちながら心豊かに暮らしている
	10. 鶴居村の子どもが成人してもタンチョウにかかわることができている
	11. タンチョウ保護の歴史の伝承や、タンチョウを題材とした文化的な活動が活発に取り組まれている



# タンチョウとの共生に向けた 取組

## ■ 鶴居村タンチョウと共生するむらづくり推進会議

### 【鶴居村における今後の給餌のあり方】

タンチョウ保護の発祥地としての責任と気概を持ってタンチョウ保護活動を継続するために、**適正な給餌は必要不可欠**と考え、国による給餌が終了しても**鶴居村として**何らかの形で以下のように**給餌を継続**する

- ◆ 地域はもとより**広く社会の理解**を得ながら行う
- ◆ 国や北海道、周辺自治体からの**理解を得るとともに**必要に応じて**連携**していく
- ◆ **越冬期の自然採食地の把握・保全・創出を同時に進め、適正な給餌の方法を常に検討しながら実施する**



# 今後の課題

## タンチョウとの共生

### ◆現状の的確な把握・課題の共有

生息環境、農業被害、観察(観光・撮影)者の実情など

### ◆共生のための環境づくり

採食地やねぐらの維持・創出、農業被害の軽減策、観察ルールづくり、関係機関・周辺自治体との連携など

### ◆普及啓発

タンチョウの学習機会の提供、インフォメーション体制の整備と人材活用、釧路湿原の保全を通じた地域活性化の検討など

## 釧路湿原の保全と地域活性化

### ◆環境保護、地域づくり、経済活動(観光等)の域内循環の構築

四季の詩<sup>うた</sup>が流れる大地

---

神舞う、ふるさと鶴居村

---

